

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.843 2025

2025年1月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

「Link!
～[私]、YMCA、世界、そして未来～」

日本YMCA同盟 総主事 田口 努

第23回日本YMCA大会が11月15日から17日、YMCA東山荘で開催されました（＝2-3面）。10人の若い実行委員たちが設定した大会テーマは「Link! ～[私]、YMCA、世界、そして未来～」。世界中のYMCAの共通目標である「Vision2030」をもとに、未来のYMCAを語り合い、世界のYMCAともつながりながら、自分に何ができるかを考える。まさに未来と世界に「Link（リンク）」する3日間を過ごしました。

「Vision2030」は4つの柱とされる目標、すなわち「①コミュニティー・ウェルビーイング」「②やりがいのある仕事と雇用環境の創造」「③持続可能な地球」「④公正な世界の実現」から成り、大会ではこれに沿って各YMCAの多彩な取り組みの発表や参加者によるブレインストーミングなどが行われました。中でも、6月の進捗調査で日本の遅れが指摘された「持続可能な地球」の取り組みについては、外部講師を招き、学びの時をもちました。すでに異常気象が実感される中、気候変動は未来の子どもや若者にどのような影響をもたらすのか——。市民が声を上げて政策を変えていく必要性や、一人ひとりの具体的な行動の重要性を説く発題は心に響くものがあり、分科会ではさまざまな思いやアイデアが語られました。

今回の大会は半数が35歳以下のユース世代となり、ユースによる報告や発題が中心となったことも特筆すべきことでした。能登半島地震・豪雨災害の復興支援活動に参加した学生の発表や、10月にケニアで開催された世界YMCAのサミットに参加したユースたちによる報告。「気候変動かるた」や「人権かるた」の紹介、パワーシフトなど、さまざまな取り組みが共有されたほか、ウクライナのユースは、「誰一人に殺すことはできない」と良心的兵役拒否を続けるために単身で日本に避難し、生活費を稼ぎながら日本の高校に通う自らの境遇を語り、平和を訴えました。社会を変えていこうとするユースの思いが3日間で大きく成長していき、大会にうねりをもたらしていった姿に、能登半島から輪島塗のチャリティー活動のために参加された柴田剛さんは閉会式で、「自分自身も大きな学びと刺激をもらった」とあいさつ。まさに、ユースがエンパワーメントされる姿にシニアがエンパワーメントされるような大会でした。

開会礼拝で佐久間健牧師（恵泉キリスト教会つくばグレースチャペル／茨城YMCA理事）は、YMCAの正章に刻まれている聖句「すべての人を一つにしてください」（ヨハネによる福音書17章21節）をもとに、人と人、そして神と人をつないでいくYMCAの役割について語られました。神によって生かされている者としての「タテの軸」と、社会の中で人と助け合い、自然と調和しながら生きていくという「ヨコの軸」は、YMCAの創設時からの基本です。イエス・キリストの隣人愛と奉仕の精神をロールモデルとして、社会の中で具体的な実践をすること。一人ひとりが与えられた賜物を輝かす場となり、他者の賜物の輝きが自分の喜びとなるようなアソシエーションであること。こうした運動を拡げ、世界と未来とにつながりながら、社会の課題に取り組んでいくのがYMCAです。20代でYMCAを創設したジョージ・ウィリアムズのように、ユースたちの思いが実践となり、社会を変えていくエネルギーとなっていくのだと思います。その積み重ねが、気候変動、戦争、貧困など、人類を脅かすような問題を解決し、明るい未来を築いていく力となるものと信じています。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org/>

第23回日本YMCA大会

全国から300人が参加

2年に一度、全国のYMCA会員・関係者が集う「日本YMCA大会」が11月15日～17日、御殿場の「YMCA東山荘」で行われました。会場参加213人、オンライン94人と、参加者数は前回を大きく上回り、また全体の約50%が35歳以下のユース世代だったこともあって活気ある大会となりました。

今年の大会テーマは「Link! ～[私]、YMCA、世界、そして未来～」。世界中のYMCAが共に目指す「Vision2030」に向けて、日本のYMCAはどう取り組んでいくか、2030年のあるべき姿について共に考えました。各地の事例紹介や外部講師による講演のほか、海外のYMCAともオンラインでつなぐなど、まさに世界と未来とに「Link」しながら、世代を超えた参加者たちが共に理想を語り合った3日間となりました。

各地から集まった実行委員



今年の実行委員会は35歳以下のユース10人で構成され、大会テーマの設定からプログラムの企画・準備、当日の運営までを担いました。9YMCAから集まった10人の委員たちは日ごろ、リーダー、学生YMCA、インターン、職員と、異なる活動をしていることもあり、それぞれが考える「Vision2030」のイメージもさまざま。8回にわたるミーティングで議論を重ね、創意工夫をこらした大会を作り上げました。

YMCAアワード 全国YMCAの『日本一』自慢 「もう始めています! 世界YMCA Vision2030」

全国YMCAのユースたちが自慢のプログラムを紹介。オンラインを含む参加者投票によって「日本一」が決定されました。



盛岡YMCA

岩手県の小学校からいじめをなくす「子どもの人権プロジェクト」



岩手県弁護士会の協力を得て2年前に発足。人権＝「すべての人々が幸せになるために 誰もが生まれながらにもつ権利」を子どもたちに楽しく伝えることで、いじめゼロを目指しています。昨年は地域の小学生から人権標語を募り「人権かるた」を制作。今後これを県内の学校に配って人権教育の普及に努めていきます。



名古屋YMCA

名古屋市の全ての子どもたちに「居場所」をつくる



名古屋市では16歳以上の約5割の子どもたちが「居場所がない」と感じている——。そんな調査データから、誰もがフラッと立ち寄れる居場所をYMCA内に作ることを決定。2030年までに週3回、朝から利用できる居場所を2カ所作り、年間5000人に提供できることを目指します。



未来新聞ワークショップ

「2030年〇月〇日、全国紙トップにYMCAが掲載されるとしたら…、いったい何の記事?」。こんなテーマで各自、2030年の理想の未来新聞を作成するワークを行いました。「パリ協定合意の1.5度 目標達成 全国の意識変化に子どもたちが関与?」「ウクライナとロシアの子どもたちを招待 東京YMCAで3国交流キャンプ」「日本の従業員幸福度80%超 YMCAと〇〇企業の取り組みで」ほかに、YMCAがノーベル平和賞を受賞するなど、Vision2030によって実現するであろうたくさんの未来像が描かれました。



世界YMCAの取り組みを共有

10月にケニアで開催された「世界YMCAアクセラレーター・サミット」には、60カ国から400人が参加し、「Vision2030」の推進・加速させるために情報交換や協議が行われました。このサミットに日本から参加した4人が、大会会場で報告会を実施。共に参加したバングラデシュ、シンガポール、マダガスカルのユースもオンラインで登壇し、各国が「Vision2030」にどう取り組んでいるか、世界の動向を共有しました。



▶ 講演「持続可能な地球のためにできること」

再生エネルギーの導入をよびかけている認定NPO法人FoE Japanの吉田明子さん(写真左)と、UP DATER(みんな電力)の真野秀太さん(写真右)から約2時間にわたり、日本の電力事情や今後のエネルギー施策の可能性などを学びました。



▲ 礼拝

開会礼拝は佐久間健牧師(恵泉キリスト教会つくばグレースチャペル/茨城YMCA理事 写真左)。閉会礼拝は日本YMCA同盟会長/アジア・太平洋YMCA同盟理事の山本俊正牧師が司式。山本会長は「分かち合う世界にLinkする」と題し、次世代や自然環境に責任をもち、節度ある分かち合いの世界をめざすようにと語られました。

▶ 新企画①「持続可能な地球」のために

ペットボトル削減のため、会場ではオリジナルタンブラーを贈呈して給水機利用を呼びかけたほか、恒例の記念Tシャツの代わりに再生繊維の風呂敷を配布。紙のガイドブックも作成しないなど、環境に配慮した大会となりました。



▲ 新企画②「オールナイトYMCA」

大会に参加できなかった方に向けて実行委員たちは、一日の終わりに1時間、その日の出来事をオンラインで配信。ラジオ番組風の楽しい司会進行が好評で、全国のユースたちが多数視聴しました。

▶ 輪島塗の販売

輪島市から柴田剛さんが来場。地震で壊れたり、保管できなくなるなどして捨てられつつあった漆器を、チャリティーで販売されました。



▲ ウクライナ避難者も参加

日本で避難生活を送るウクライナのユースも参加し、キャンプファイアなどプログラムを共に楽しむとともに、「戦争は人の生活も環境も破壊するだけ」と訴えました。

>>> 2030年のYMCAは…



大会会場で、全参加者によるブレンストーミングを実施。「Vision2030」に掲げられた4つの目標に向けて私たちは今何をすべきか。一人ひとりが2030年のあるべきYMCAの姿を考え、具体的な取り組みを書き出しました。主な意見をご紹介します。



コミュニティ ウェルビーイング



Community
Wellbeing

〈子育て、子育て支援の充実〉

- 支援を必要とする子どもたちの活動の充実。そのための支援企業を増やす
- 子どもの遊び場の整備／遊びの権利の保障／安心できる居場所の提供
- 子育て支援(育休取得率100%／親の支援／体験格差の解消)

〈地域ニーズへの対応〉

- 少子高齢化対策(こども園に高齢者も集まる／高齢者も生き生きと活躍)
- 障がい者、外国人、ほか生活困窮者への支援の充実
- 社会の“弱者”に出会い、人間中心の社会を目指すYコミュニティを実現

〈つながりの強化〉

- 他団体とのつながりを強化／すべての年代の方が集まる場所に
- 孤立のない社会／助け合い、みんなが活躍できる場に／支える⇄支えられる場
- 海外との交流促進。武力によらず、世界中で協力しあえる

やりがいのある 仕事と 雇用環境の創造



Meaningful
Work

〈YMCAの雇用環境を改善する〉

- YMCAで働きたい人が増える。「なりたい職業ランキング」に入るくらい
- YMCAに関わるすべての人が心身とも健康で幸福である／自分の能力を発揮できる／多様な働き方ができる／職員の待遇改善
- さまざまなバックグラウンドの職員が働ける場／障がい者、外国人雇用の促進

〈職業教育の推進〉

- 引きこもりなど、社会とつながることが難しい人への就労支援、仕事の創出
- 若者のやりたいことを吸い上げて実施していく。働く意義を体感できる活動／共に働く喜びを提供する
- 子どもたちが夢をもてるような、自由な(職業)選択ができる社会
- 外国人の職業教育プログラムを実施
- インターンの受け入れ促進

持続可能な 地球のために



Sustainable
Planet

〈環境教育の実施〉

- 自然を愛する人を育てる。地球を大事にできる考えを育む
- 自然体験／農作業体験／電気ガスのない生活体験等によって暮らしを見直す

〈エコ活動〉

- YMCAの備品の再利用、フードロスへの取り組み
- 環境負荷の少ない建物に(自販機でなく給水機／ソーラーパネルの設置／クリーンエネルギーの利用／エアロバイクで発電)

〈その他〉

- 核、原発の全廃
- YMCAの畑を作る(食料不足で困っている人へ提供)
- 就労支援を通して、オーガニック農業の振興

公正な世界の 実現のために



Just World

〈平和教育〉

- 平和教育、平和活動の研究／戦争、紛争をやめる方法を真剣に考える
- 核兵器のない世界の実現。非暴力平和主義の実践
- 国際交流の機会を増やす／草の根交流で平和構築

〈貧困などによる体験格差、学習機会の格差のないYMCAに〉

- 世界中の子どもたちに学びの環境を
- ヤングケアラーや貧困家庭など、すべての子どもが平等に参加できる

〈ジェンダー、障がい、国籍による差別のないYMCAに〉

- 多様性が尊重され、誰もが活躍できる／インクルーシブな世界へ

〈誰も取り残さないYMCA〉

- 生きる希望を見失った若者の居場所／社会的弱者の居場所になる
- 社会のセーフティネット／気軽に相談できる場に

能登半島 地震・豪雨を乗り越えて

能登半島地震から一年が経ちました。9月には豪雨にも見舞われ、「二重災害」という苛酷な経験をされた被災地の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

YMCAは地震直後から避難所の運営サポートを担い、豪雨後は泥かきボランティアを派遣してまいりました。これまで輪島市町野町に派遣したスタッフ・ボランティア数は延べ約330人となりますが、雪の季節には作業困難なことから11月末でいったん派遣を休止しています。

替わって冬の間は、主に子どもを対象としたリフレッシュプログラムを実施しています。12月8日には富山YMCAのスタッフと小中学生6人が町野町を訪れ、現地の小中学生とともにピザ作りを楽しんだほか(=写真)、冬休み中に富山YMCAが行うスキーキャンプに招待するなど、楽しい体験によって被災地のご家族を応援していく計画です。

YMCAが関わってきた輪島市町野町では12月現在、町を覆っていた土砂は減り、インフラの復旧も進んでいますが、個人宅にはまだ泥が残ったまま。解体工事遅れ、仮設住宅で冬を迎える方々が多い状況です。YMCAは今後も、皆さまからお預かりした募金をもとに、必要な支援を届けてまいります。引き続きご理解・ご協力をお願いします。



ウクライナ避難者支援

■ 日本で3回目のクリスマスに 人形劇を鑑賞



終戦の見通しのたたないまま、日本では現在約2000人の避難民が生活しています。小さな子を抱える母親や単身で来日した若者、高齢者など、なかなか安定した暮らしが築けない方が多い状況ですが、日本での

公的支援は3年を区切りに順次終了・縮小となっています。言い知れない不安を抱える避難者たちに、温かなクリスマスをプレゼントしたいと日本YMCA同盟は12月7日、「人形劇団ボポロ」の観劇会を開催。会場の東京YMCA山手センターには日本の親子も含め約80人が来場し、ウクライナ民話『てぶくろ』の劇を楽しみました。日本でも親しまれている『てぶくろ』は、小さなネズミが、寒さをしのぐと訪れたオオカミなど大きな動物たちを“手袋の家”に入れてあげるといふ、共生社会の理想が描かれた作品です。人形たちのユーモアあふれる舞台を楽しみながら、平和の尊さを思う一日となりました。



■ ウクライナYMCA オンライン報告会

2022年2月24日の軍事侵攻から1000日となった11月20日、ウクライナYMCAは各国に向け、オンラインで近況を発信しました。ウクライナYMCAは侵攻後も国内20拠点で保育事業などを続け地域の暮らしを支えています。報告では、原発のあるザポリージャを始め各地の近況が語られ、警報とともに地下に逃げる子どもたちの姿や、恐怖を和らげるためのアートセラピーの光景など、緊迫した動画も紹介されました。

報告会にはヨーロッパYMCA同盟ほか、世界YMCA同盟、北米YMCA同盟の総主事等も登壇。今後も青少年のメンタルヘルスや退役軍人のリハビリなど健康プログラムを強化していくとともに、ウクライナYMCA自体を支えるため、スタッフ養成やプログラム開発などに全面的に協力していくと表明。国外避難者の生活サポートも含め、「私たちはウクライナを孤立させない」と連帯と励ましのメッセージが送られました。

永年のご奉仕に感謝

YMCA運動に貢献された方々の表彰・感謝の式が11月16日、第23回日本YMCA大会の席上で行われました。この表彰は2年に一度、各YMCAからの推薦を受けて日本YMCA同盟表彰委員会で選考され、同常議員会の承認を経て決定されます。

今年は下記の272人が表彰されました。永年にわたるご奉仕に感謝し、お名前をご紹介します。(敬称略)

▼25年勤続者賞

とちぎYMCA
菅井 宏益
添田 和信

埼玉YMCA
小谷 全人

東京YMCA
小畑 貴裕
倉島 克佳
松本 竹弘
熊沢 佳代
星住 秀一

横浜YMCA
樋口 康子
マックニール由美子
平野 絹絵
高内 優子
長南 佳世
前田 桂子

富山YMCA
上村 香野子

大阪YMCA
大塚 由実
宮原 学
瀧中 慎介
宇埜 充洋
杉村 徹

神戸YMCA
山田 浩介
池田 英基
奥田 美那子
石田 由紀

広島YMCA
平岡 正春
田中 信也
土井 智美

熊本YMCA
丸内 陽子
吉田 しのぶ
本田 奈緒子

▼25年継続会員賞

北海道YMCA
中村 義春
川嶋 龍博
工藤 宏二

とちぎYMCA
秋田 正人
伊澤 良則
石飛 雅代
大木 一俊
岡田 孝司
金澤 林子
川上 健次
久家 康雄
久保 孝弘
河野 順子
鈴木 保江
鷹箸 孝
高村 博
種ヶ島 和洋
中村 俊幸
並木 信一
並木 真
丹羽 芳雄
長谷 範子
原田 明子
福田 隆男
福本 知恵子
藤田 哲夫
本多 啓夫
牧田 羊
増山 律子
丸山 孝
矢部 万紗人
山口 俊一
山崎 敦子
山田 公平
横嶋 依里子
平田 和子

名古屋YMCA
橋爪 圭子
塩田 保
山口 幸子
鈴木 誉三
都築 正和
高田 土嗣
早川 政人
山村 喜久
小林 純子
Olson Kikuchi 三恵
松原 行謙

滋賀YMCA
久保田 正紀

京都YMCA
石若 義雄
鍵谷 将宏
隠塚 功
山本 一博
河合 久美子
倉田 保
山田 隆之
島本 浩晃
中村 誠司
寺久保 吉雄
徳永 栄治
中原 一晃
井上 英也
虎田 悦子

奈良YMCA
藤本 りか
吉村 宏子

松尾 茂春
三宅 有一
森 明子

埼玉YMCA
吉野 勝三郎
内藤 洋子
中里 俊昭
大久保 忠人
持田 喜雄

東京YMCA
小川 圭一
田中 健治郎
田中 博之
田中 治彦
薄倉 恵美子
笈川 和子
清水 敦美
篠田 秀樹

横浜YMCA
遠藤 弘子
黄 崇子
高山 裕康
三森 妃佐子
大鹿 康廣
中村 敦
船山 道敏
菊池 恭子

山梨YMCA
雨宮 あけみ
内山 秀行

静岡YMCA
平野 正文
牛田 俊夫
佐藤 諭
鈴木 敦
長田 俊児
勝又 隆吉
菅谷 正
阿南 晃
伊藤 一芳
石川 泰仁
小林 隆司
佐野 佳治
鍋田 市朗
宮崎 義旦

富山YMCA
碓井 太吉
上村 清
川淵 映子
島田 茂
城石 芳人
中島 完一
本多 英一郎

名古屋YMCA
橋爪 圭子
塩田 保
山口 幸子
鈴木 誉三
都築 正和
高田 土嗣
早川 政人
山村 喜久
小林 純子
Olson Kikuchi 三恵
松原 行謙

滋賀YMCA
久保田 正紀

京都YMCA
石若 義雄
鍵谷 将宏
隠塚 功
山本 一博
河合 久美子
倉田 保
山田 隆之
島本 浩晃
中村 誠司
寺久保 吉雄
徳永 栄治
中原 一晃
井上 英也
虎田 悦子

奈良YMCA
藤本 りか
吉村 宏子

大阪YMCA
佐古 利子
ト田 啓三
ト田 昭子
和田 早苗
吉川 尚志
丹吾 礼
松本 武彦
飯沼 眞
柳谷 利起

和歌山YMCA
吉田 圭治

福岡YMCA
是永 昌司
坂本文比古
草場 修二
五斗 美代子
角 正信
藤村 やよい
大浦 敬規
洪田 勝巧
富永 明
浦川 祥子
永井 道子
久野 順子
後藤 秀規
吉永 貴弘
*匿名1名

熊本YMCA
麻生 雅子
河邊 平八郎
上田 昌美
赤星 敦
甲斐 國英
高崎 貞嗣
福田 邦子
横山 純一郎
松岡 正勝
平野 克美
和田 修一
寺田 輝彦
小川 祐一郎
千代盛 虎文
大崎 隆義
橋本 志宇子
本堀 秀一
後藤 慶次
森 律子
坂田 一幸
俵 哲
篠崎 泰子
宮本マリアコンセプション
前田 香代子
畠森 靖博

京都YMCA
坂下 泰幸
廣島 義夫
中島 啓泰

大阪YMCA
谷川 寛
入江 保夫
市田 恒夫
中村 隆幸
望月 強
桜井 和之

神戸YMCA
島田 保子
*匿名1名

福岡YMCA
寺園 喜基
外池 圭二
天児 都
壹岐 裕志
志満 秀武
齊藤 皓彦
*匿名1名

熊本YMCA
檜室 なおみ
井上 新

▼青少年奉仕賞
とちぎYMCA
鷹箸 孝

東京YMCA
佐野 和夫

横浜YMCA
石井 徹夫
今城 高之
今城 宏子
松橋 秀之
矢口 勝
吉原 訓

名古屋YMCA
中條 秀和
服部 庄三
荒川 恭次

京都YMCA
大山 裕巳
茅田 敦子
山口 弘子
奥村 賢三
大野 信幸
岡西 博司
砂地 一廣
兼松 豊
坂井 昇
森 伸二郎

奈良YMCA
内田 勝久
林 佑幸
山田 静代

大阪YMCA
中本 和子
欽谷 明
杉浦 眞喜子

和歌山YMCA
小林 由美子

神戸YMCA
井出 浩
山本 義和

YMCAせとうち
蔵知 武
三浦 克文
菊池 捷男
蔵知 晋

熊本YMCA
大原 英子

▼特別功労賞
静岡YMCA
森 重男

福岡YMCA
齊藤 皓彦